

## 特集 文化振興マスタープラン

巻頭言 8 文化立国の実現に向けて——樋口廣太郎

座談会 10 二一世紀の文化政策に期待すること  
(出席者) 水上 忠 / 高階秀爾 / 如月小春 / 浅尾新一郎 / 林田英樹

論文 22 二一世紀に向けたメディア芸術の新たな展開——滝川精一

エッセイ 24 震災復興が文化振興に示唆すること——新野幸次郎

26 文化振興マスタープランによせて——江戸京子

事例紹介① 28 厚木の子どもと舞台芸術——厚木市文化会館

事例紹介② 31 大垣市北校下文化財愛護少年団の歩み——大垣市教育委員会

34 平成九年度(第一回)文化庁メディア芸術祭——文化庁文化庁芸術文化課

資料 36 文化振興マスタープラン——文化立国の実現に向けて——文化庁

### カラー

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ね  
古閑裕而記念館(福島県)  
4 天然記念物歳時記  
十和田湖および奥入瀬溪流  
表2 名作シリーズ  
聖女カタリナの神秘の結婚  
表3 文化財紹介  
吉井町筑後吉井

6 私と教育、私とつけ  
フランソワーズ・モレジャン

50 焦点—文教施策  
中教審ニュース

68 インフォメーション  
私の選んだ二冊  
和田征士

70 都道府県発  
●教育・学術・文化・スポーツニュース  
神奈川県、長野県辰野町、石川県小松市、沖縄県

72 科学はいま  
宇宙科学研究所  
74 現代スポーツあれこれ  
フットサル

76 行ってみよう やってみよう  
国立赤城青年の家

78 海外教育ニュース  
文学のふもと  
最後の將軍

80 文学のふもと  
最後の將軍

82 鑑賞席  
84 編集後記

初めて私が文化政策推進委員会の会議に出席した時のことはいまだに忘れがたい思い出である。

広い部屋の、コの字型にしつらえた机の上にそれぞれの委員の名が提示され、中央には議長、そして各分野の諸先輩たちがきら星のように並び、入口側には文化庁のお偉い方々の席が数列。

まずそのものしきさに圧倒された。いかに心臓に毛が生えた人であれ、そのなかで発言するのはなかなか勇氣がいるものであり、ましてや新参者で氣の小さい私などそんなことは思いも及ばない。と思っているとなんと議長から「江戸さん」と突然のご指名である。私の頭のなかには真っ白で、思考は完全に停止。耐えがたい沈黙の時が流れ、遙か昔の学生時代、先生から名指しを受けるあの恐怖の瞬間を思い出していた。

この会議では、小委員会から提出された案の一字一句に至るまで、細かく討議が重ねられるので、出来上がった提言に

はどのように政策に反映され、実施されるのであろうか。

今度の提言のなかで、私個人が最も重要視してほしいと感じることは、我が国の有形無形の伝統文化の保護と継続である。

今年、桜の季節に、奈良と京都で花見を満喫する幸運に恵まれたが、山々の麓の新芽に混ざって桜が霞のようにたなびき、墨色の瓦のなだらかな勾配の寺の屋根が、あちらこちらに見え隠れしているのを見ると、私たちはなんと和やかな自然と、それを活かす美意識を持った民族

エッセイ  
Essay

ピアニスト  
江戸京子



えど・きょうこ 東京都出身。パリ国立音楽院卒業後、ピアニストとして国内外で活動。財団法人アリオ音楽財団を設立し、理事長に就任。音楽文化の発展に力を注ぎ、世界各国のピアノコンクールの審査員を数多く務める。フランス政府「芸術勲章シュヴァリエ」授章。

はあらゆる観点で盛り込まれ、文章で読むかぎり完璧に近いものが出来上がる。やはり一国の文化政策に対する提言だけあって、いかに沢山の時間と豊富な人材、膨大なペーパーが費やされることかと感じ入る。万全を期するとはこのことだが、時にはあまり多くの言葉が用いられ、多様な意味合いを持たせ過ぎ、焦点が絞り込めない場合もあるのではないか。

今年の「文化振興マスタープラン—文化立国の実現に向けて—」のなかの文化と経済の繋がりでなくても、こと芸術文化に関しては、その質が高度で純粋であればあるほど、経済の発展とは繋がりがやがない。むしろ逆にこうしたものこそ商業的思惑を抜きにした支援が必要である。一見、目先の効果はなく、万人向きでないように見えても、真の芸術作品の生命は時代を越えて生き、永く人間の精神の糧となる。この辺の意味合いは、盛り込みにくい部分かもしれない。

さてこうした文化政策推進会議の提言

であったか、一体いつそれを失ってしまったのかと思う。こうしたそれぞれの国特有の伝統のうえに立ってこそ、はじめて真の文化立国が可能になる。

すでに本来の町の姿が無残なまでに破壊された今、常に新しい箱を作って経済発展に繋げようとする地方自治体に対し、今年の提言にあるような、関係省庁との連携協力のもとより、もつと文化庁が主体性を持って広範囲にわたっての伝統文化財の消失を阻止することが急務なのではないだろうか。

# 文化振興マスタープラン によせて

# 特集 生涯学習施策 の 新たな展開

●巻頭言  
生涯学習施策一〇年と  
今後の展望

三浦朱門

●座談会  
生涯学習社会の  
構築に向けて

―出席者 有路 信／岩崎信夫／金丸直人  
河 幹天／高橋牧人／向 寺脇 研  
●事例紹介 広島県教育委員会ほか

記念館めぐり ◆ゆかりの地を訪ねて

私と教育、私としつけ 大佛次郎記念館  
小平桂子アネット

都道府県発

◆教育・学術・文化・スポーツ・ユネス  
栃木県・鳥根県出雲町  
長崎県佐々町・鹿兒島県

## 編集後記

▽四年に一度開かれるサツカーのワールドカップがフランスで開幕しました。三二か国が参加して行われるこの大会、本誌が読者の皆様方のお手元に届くころには日本代表チームの試合結果が出ているかもしれません。

今年大会はテレビの前で応援される方が多いと思いますが、四年後の二〇〇二年大会は、日本・韓国共同開催です。ぜひ競技場で観戦したいものです。▽さて、今月号は今後の文化振興方策の基本的方向を示すものとして策定された「文化振興マスタープラン」を特集として取り上げました。心の豊かさを求める時代となり、文化への関心が高まると同時に、美術館や博物館の利用者が女性を中心に増えているそうです。男性

は比較的年齢の高い方が多いというところですが、日ごろ多忙な方も、休日などを利用して足を運んでみてはいかがでしょうか。

また本誌では、この四月号から「記念館めぐり」という企画を始めました。これは、地域にゆかりのある人物の功績を顕彰する博物館、美術館等を紹介しているものです。今月は「福島市古閑裕而記念館」を紹介しましたが、全国各地にこのような記念館が多数ありますので、今後も紹介して参ります。ほかにも、名作シリーズや文化財紹介、天然記念物蔵時記など文化に関する記事を毎月掲載しております。読者の皆様にとって、文化に対する興味・関心を持つきっかけとなれば幸いです。

(K・M)

### 投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んでの感想、御意見等をお寄せください。

- 「読者からのたより」投稿規定
- ①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
- ※文章を一部手直しさせていただくことがあります。
- 送り先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部
- ※電子メールでも受け付けております。
- 宛先名「jiho@monbu.go.jp」
- 「文部時報読者アンケート」
- 文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。
- 宛先名「jiho@monbu.go.jp」

### コンピュータネットワークを利用した文教行政の広報

文部省では、我が国の文教施策等を広く皆様にご紹介するため、インターネット等を利用して情報を提供しています。  
インターネットアドレス：  
<http://www.monbu.go.jp/>(半角入力)  
パソコン通信：  
GO コマンド(Nifty-Serve) } MONBUSHO  
Jコマンド(PC-VAN) }  
なお、パソコン通信による情報提供は、国立教育会館の協力を得て実施しています。

- 著作権所有——文部省©
- 発行所——株式会社 きょうせい
- 本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
- 本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
- 電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161
- 印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成10年6月10日印刷  
平成10年6月10日発行

定価610円(本体581円)(〒84円)  
年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。  
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いいたします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。